

第3回岩手・宮城内陸地震に係る山地災害対策検討会 議事要旨

1 開催日時：平成20年7月30日（水）13：00～16：00

2 開催場所：ホテルサンルート一関（一関市）

3 議事

・ 治山計画策定に当たっての課題整理

4 主な検討結果・報告及び委員の発言内容

（一迫川上流域）

- ・ 当面の対策として、溪流内の不安定土砂の流出防止対策を優先し、溪流内堆積土砂の末端部に谷止工等を設置するなどにより、下流に大規模な被害をおよぼす土砂災害を防止する。当該対策が実施されるまでの間は、関係機関と連携した警戒避難システムを整備する。
- ・ 溪間工の施工に当たっては、土質条件を考慮してダムの形状や構造、設置箇所を検討すべきである。
- ・ 3年目以降の対策として、谷止工等の溪間工だけでは十分な山腹残存土砂の安定が図られない箇所における山腹工の施工や、土砂流出状況等を踏まえた溪間工の追加工事を行い、流域全体の安全性を向上させることとする。

（その他の流域における代表的なもの）

- ・ ドゾウ川上流域（駒ノ湯上流）の崩壊発生源やその直下の荒廃溪流は、地形が急峻な高標高地域にあり、下流への影響を踏まえ施工を見合わせることはやむを得ないと考えられるが、今後、自然環境保全に十分配慮した航空緑化工法等の開発を検討してはどうか。
- ・ 耕英地区については、今後の降雨や地震により、崩壊が拡大する危険性があり、その兆候把握のためモニタリングが必要ではないか。
- ・ 市野々原地区については、引き続き調査ボーリング等により地すべり機構解析を進め、今後、課題を再整理するが、降雨・融雪水が浸透し不安定化しやすい状況にあることから、地下水・地表水の浸透を抑制する工法を検討してはどうか。
- ・ 磐井川流域の産女川上流については、大量の不安定土砂が堆積しており、下流に流出する危険性が高く、この不安定土砂の固定を優先するべきではないか。
- ・ 磐井川流域の尿前川については、既設治山施設の効果により、被害の効果が抑えられているものの、治山施設が一部被災し、地すべりの再活動が懸念されることから、モニタリングと併せて、被災施設の早期復旧が必要ではないか。

以 上